

大鹿秀正さん工業会理事退任記念インタビュー

2023年7月 野村 正裕 (F55)

計測会顧問の大鹿秀正さん(F47)が2023年5月に名古屋工業会の理事を退任されました。この機に、これまでのご尽力に感謝するとともに、計測会の生き字引でもある大鹿さんが名古屋工業会、計測会でどういった活動をされてきたのかをお聞きするため、2023年6月に愛知県長久手市内の某コーヒー店にてインタビューをさせていただきました。また、立会人として計測会役員の西村良博さん(F48)にもご出席いただきました。

(野村)

大鹿さんは2017年度から2022年度の6年間にわたり名古屋工業会の理事を務められました。まずは、工業会の理事になられた経緯をお聞かせ下さい。

(大鹿)

2017年度から、計測会が名古屋工業会(以下、工業会と記す)名古屋支部の運営を担当することになり、私が、その名古屋支部長に就任することになりました。名古屋支部長は工業会本部の副理事長を兼務することになっていたため、そちらの役職にも就きました。

その後、2019年度に工業会名古屋支部担当は経友会(旧経営工学科)に引き継いだため名古屋支部長は退任しましたが、工業会本部の理事として2022年度まで工業会に留まることになりました。

(野村)

工業会理事に就任される前から計測会の役員を務められていたと思いますが、計測会との関わりをお聞かせ下さい。

(大鹿)

計測会が発足した1977年(S52)に、第一回目の会合が行われ、戸苺吉孝先生(F39)から熱心に誘われたのでその会合に出席したのを覚えています。その時、同期の守田賢一さんとF47の学年幹事になりました。

S52年3月に発行された計測工学科卒業生名簿に、計測会の組織と役員メンバーが記されていますが、当時の計測会組織は、計測会本部、東京支部、大阪支部、名古屋支部と学年幹事で構成されていました。

計測会発足当時は、1期生(F39)、2期生の先輩方が主要役職に当たられ、戸苺先生はじめ学内の先生方が中心になり運営されていたのだと思います。

そして、小鍛治 正さん(F46)が計測会会長時代に計測会名古屋支部の副支部長になりました。

その時の名古屋支部長は東邦ガスの役員をされていた市川観自さん(F47)で、戸苺先生が熱心に就任要請されていました。

副支部長時代の2010年は、計測工学科50周年記念の年で、大鑄先生、米谷先生といっしょに10月30日の記念懇親会に向けた準備を行ったのを覚えています。

その後、同期の守田賢一さんが計測会会長に就任された時に、計測会名古屋支部長になり、2020年度までは、工業会の理事と兼務していました。

計測会の名古屋支部長になったのは、記憶が確かではないのですが、恐らくトヨタ自動車を退職した2015年ではなかったかと思います。

メルマガ2015年3月号をみると、計測会役員の体制が以下のように記されています。

会 長 守田賢一(47) 名古屋支部長 大鹿秀正(47) 東京支部長 小川 一郎(52)
大阪支部長 加瀬一彦(49) 大阪副支部長 岡田慎也(54)
事務局長 米谷昭彦(60) 事務局 名簿担当 木村高志(62) 事務局 会計担当 内藤 隆(H1)
学内代表 大鑄史男(49)
副会長 大鑄史男、米谷昭彦、加瀬一彦、小川 一郎
相談役 小野田勝洋(39)、戸苺吉孝(39)、小鍛治正(46)

その後、2021 年度に、守田さんから現会長の寺倉修さん(F50)に会長が交代されたタイミングで、名古屋支部長から顧問に代わり現在に至っています。

(野村)

2017 年度に計測会が工業会名古屋支部の担当になったのはどういった経緯でしょうか。

(大鹿)

工業会の名古屋支部は、11 の単科会(各学科の同窓会組織)が 2 年単位で持ち回りで担当することになっていて、1996 年度(H8)と 1997 年度に計測会として最初の工業会名古屋支部担当になり、当時の計測会会長の石寺孝さん(F39)が、名古屋支部長に就任されたと記憶しています。

計測会は、その後 2 年間は戸苺先生が会長で、F39,F40 の 1 期生、2 期生の方々と計測 OB の教員の方々が計測会役員を務められていました。

そして、約 20 年後の 2017 年度から再び計測会に工業会名古屋支部のお役が回ってきたというわけです。

(野村)

工業会理事時代の思い出をお聞かせ下さい。

(大鹿)

工業会名古屋支部の運営には、名工大在職の先生方に非常にお世話になりました。

H30 年度(2018 年度) 名古屋工業会名古屋支部「第2回連絡幹事会」議事録 には工業会名古屋支部の体制が以下のように記されています。

支部長 大鹿 秀正 F47 幹事長 大鑄 史男 F49
庶務幹事 米谷 昭彦 F60 庶務幹事 木村 高志 F62 会計幹事 内藤 隆 F①

私以外のメンバーは、全て名工大の先生方でした。

(野村)

この議事録を読むと、「支部運営あるべき姿検討プロジェクト」の中間報告を大鹿さんが報告されていますね。当時から、学生支援や単科会との連携の在り方を真剣に検討されていたことが良くわかります。

(大鹿)

工業会では、工業会のあるべき姿、大学との関係、先生方との関係、単科会との関係はどうあるべきかがよく議論の的となりました。皆さん、いろいろな意見をお持ちで、なかなか一本にはまとまりませんでした。現実的な課題としては財政面をどう持続可能にするのかということでした。

(野村)

工業会の理事を経験されて感じたこと、伝えたいことはありますか。

(大鹿)

大学への支援も工業会の役割ですが、押しつけにならないように大学側の意向や立場を尊重することが大切であると感じました。

工業会も計測会も共通の課題が多く、計測会の活動も、今のように年1回のイベントとメールマガジンとHPでのつながりぐらいが丁度良いのかもしれませんがね。

(野村)

同期の守田賢一さんとは、長い間、二人三脚で計測会の運営に携わられたように思いますが。

(大鹿)

私が工業会理事の時代、計測会会長は守田さんでした。守田さんとは同期のこともあり、本音で意見をぶつけ合うことができました。その関係は今も変わっていません。

実は、守田さんとは同じ高校で、弓道部の一年先輩でしたが、守田さんは一年浪人して名工大に入られたので、大学では同期になったという間柄です。皆さんの前では、二人はさん付けで呼びあっていますが、二人きりになると守田さんからは「大鹿！」と、呼ばれています。

(野村)

大鹿さんといえば、思ったことを誰とでも率直に語られる印象ですが、お若い頃からそのような性格だったのですか。

(大鹿)

小学生の頃はあまり自分の意見を主張することはありませんでしたが、曾祖父から「分団長ではだめだ。団長を目指せ！」と教育を受けてきたこともあって(団長というのは無いのですが、、、) だんだんと自分の意見を周りの人たちにぶつけていくようになり、意見が衝突することもありました。また、時として一人で突っ走ってしまい、回りに御迷惑をかけたこともあり、自分は未だ子供だなと思うことも多々ありました。

しかし、結局のところ周りの方々を支えていただきながらやってこれたという思いです。振り返ってみると、会社生活でもそうでした。先輩、後輩かまわずに本音で意見をぶつけあってきました。それによって人間関係が悪くなることもありましたが、腹を割って話すことができる方が増えたとも思っています。

(司会)

それでは最後に、今後の工業会、計測会への期待、要望等がありましたらお願いします。

(大鹿)

今年度から工業会本部も新理事長となり、計測会からは私の後を継いで、工業会と計測会の歴史をよくご存じの大鑄史男さん(F49)に新たに理事に就任していただきました。また、工業会の今後について、お互いによく議論をしてきた経友会の仁科健さん(B50)が常務理事として残られたので、今後も工業会と計測会の間は今まで以上に良いコミュニケーションがとられるのではないかと期待しています。

同窓会へは世代の価値観の違い、立場の違いを意識してお互いを理解し合うことと、感謝を忘れないようにしていただきたいと思います。ありがとうございました。

(野村)

大鹿さん、本当に長い間、お疲れさまでした。計測会には、これからも顧問として関わっていただきますので、引き続き宜しくお願いします。

本日はありがとうございました。